

看護倫理

単位数：2 単位

内田宏美：基礎看護学講座教授 加藤真紀：地域・老年看護学講座准教授
瀧尻明子：臨床看護学講座講師 榊原 文：地域・老年看護学講座講師
清水哲郎：岩手国際医療大学学長

1. 科目の教育方針

看護倫理の中心課題は、現代の保健医療システムの中でケアはいかにあるべきかを探ることであり、専門職の責務として倫理的問題やジレンマを解決していくための方法を探究することである。CNSをはじめ大学院修了者には、看護実践の場で現に発生している、あるいは潜在的な倫理的問題に対して、メンバーが主体的に対峙し、問題の本質を分析し、より良い解決に向けて対策を講じることができるよう、調整や支援を行うことが期待されている。

本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの見方考え方を身につけ、看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを判断する。さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、臨床における倫理的調整を図るための問題解決力・調整力を養う。

2. 教育目標

- 1) 倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護実践における倫理の基本概念を理解する。
- 3) 倫理的課題に対応する基盤としての組織文化・組織風土の重要性を理解し、現実の課題に向き合うことができる。
- 4) 看護の臨床で経験する倫理的ジレンマ・道徳的苦悩に対し、状況対応型解決法の適用を試み、倫理的調整をはかるための問題解決のプロセスと方法を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- ・講義：基本テキスト、参考文献等により、課題に関する事前学習を行い、疑問や問題意識を持って授業に臨むことを前提とする。
- ・文献講読：担当した単元のポイントを整理し、自身の経験を踏まえて考察してレジュメにまとめ、発表する。メンバー間でのディスカッションにより考察を深める。
- ・事例検討：対応に苦慮した倫理的問題を孕む事例について、“意思決定モデル”又は、清水哲郎氏の「臨床倫理検討シート」に準じて問題を整理し、妥当な解決策を探求する。

【評価】課題レポート等により総合的に評価する。

4. テキスト

- 1) サラ・フライ（片田範子訳）『看護実践の倫理』（第3版）日本看護協会出版会、2010

【参考文献】

- 1) 清水哲郎『臨床現場に臨む哲学』勁草書房、1997
- 2) ドロレス・デューリー他『看護倫理 1, 2, 3』みすず書房、2006
- 3) ジョイス E. トンプソン他『看護倫理のための意思決定の 10 のステップ』日本看護協会出版会、2004
- 4) ダニエル F. チャンブリス(浅野祐子訳)『ケアの向こう側』日本看護協会出版会、2002
- 5) ファビエンヌ・ブルジュール(原山哲他訳)『ケアの倫理』白水社、2014

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	/	保健医療における倫理的問題と背景 ・医療化の進展による諸問題、生命の質、平等と公平 保健医療の場における患者・クライアントの権利と医療者の義務 ・人間性の尊重、知る権利と自己決定権の保障、個人情報の保護	内田
2	/	看護者の基本的責任、看護実践上の倫理的概念 ・責務・アドボカシー・協力・ケアリング、倫理指針 看護実践における倫理的ジレンマとその本質 ・医療倫理と看護倫理、倫理的ジレンマと道徳的苦悩	内田
3	/	ケアの倫理 ・支え合う平等という新たな地平を探る	内田
4	/	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
5	/	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
6	/	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
7	/	看護実践における倫理的問題への対応 ・異文化における価値の尊重、国際支援における看護職の調整的役割	瀧尻
8	/	看護実践における倫理的問題への対応 ・子どもの虐待問題における看護職の調整的役割と責務	榊原
9	/	看護実践における倫理的問題への対応 ・急性・重症者ケアの場における看護職の調整的役割と責務	加藤
10	/	臨床現場に臨む哲学 ・インフォームド・コンセント再考	清水
11	/	臨床現場に臨む哲学 ・患者の死生に寄り添える医療者であるために	清水
12	/	看護専門職として倫理的問題にどう向き合うか ・高齢者の意思決定を支える看護職の役割と責務	清水
13	/	看護実践の場における倫理的ジレンマへの対応 ・事例検討により倫理的問題に対する効果的な倫理的調整のあり方を探求する	加藤
14	/	同上	加藤
15	/	同上	加藤
		課題レポート：メ切○/○(△) テーマ：看護職者の倫理的責務	加藤